

日本医学会分科会活動報告

学会名(No. 133 ) 日本女性医学学会

代表者名 高松 潔

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

- 1) 日本ナースヘルス研究 (JNHS) に協力し、15019 人の前向きコホートにおける長期追跡調査を行っている。この調査研究では、女性のすべてのライフステージにおける quality of life の維持・向上のために、女性に特有な心身にまつわる疾患について、主として予防医学の観点からエビデンスの創生・発信を行った。また女性看護職・女性薬剤師の次世代コホート (J-SNOW) 研究の立ち上げに協力し、さらに研究を推進している。
- 2) ホルモン補充療法(HRT)データベース構築：ホルモン補充療法登録調査研究事業 (JHDP) を行っている。
- 3) 「女性医学ガイドブック」の編集・発行。
- 4) 「日本産科婦人科学会用語集・用語解説集」編纂に参加。

b. 当該領域における国際的な役割

国際閉経学会 (IMS) ・アジア太平洋閉経学会 (APMF) ・北米閉経学会 (Menopause Society/NAMS) との連携

- 1) 国際閉経学会 (IMS)
  - ・2024 年 10 月 19-22 日に Melbourne, Australia で開催される第 19 回国際閉経学会に日本からも多数の参加が予定されている。
- 2) アジア太平洋閉経学会 (APMF)
  - ・韓国閉経学会の学会誌である Journal of Menopausal Medicine (JMM) を APMF と共に日本女性医学学会の英文公式誌とした。
  - ・2008 年に策定された "APMF Consensus Statement on the Management of the Menopause" の改訂作業に日本からも 4 名の役員が参加している。
- 3) 北米閉経学会 (Menopause Society/NAMS)
  - ・2024 年 9 月 11-14 日に Chicago, IL で開催される北米閉経学会に日本からも多数の参加が予定されている。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

- 1) 女性のヘルスケアに関わる医療従事者に対して、女性医学に関する知識の向上を目的として 2019 年度から日本女性医学学会主催「女性のヘルスケア研修会」を開催している。現在は約 35 講演を 6 回に分けて配信し、1 年間かけてオンデマンドにて聴講と確認試験を行い、全ての講演の聴講を終了した受講生には修了証を発行している。日本女性医学学会認定女性ヘルスケア専門医取得前あるいは取得後の専門医教育、あるいは薬剤師、助産師、看護師、保健師など医療関係者の専門教育を目的としている。また受講者による地域での公開講座開催など地域への還元も考慮している。
- 2) 女性医学に興味ある多職種の医療従事者を対象に、幅広いウィメンズヘルスケアに関する最近の情

報を学び女性医学に対する理解が深まることを目的として、2021年度から日本女性医学学会主催「医療スタッフのためのウィメンズヘルスケア講座」を開催している。これは、前年度の「女性のヘルスケア研修会」の講演ビデオを用いて安価で1年間オンデマンドで聴講可能としている。

3) これまで日本女性医学学会主催「女性のヘルスケア研修会」で行ってきたテーマに最新の情報を加え掘り下げた講演をもとに、演者と参加者の活発な質疑や討論を行うことを目的として2023年度から日本女性医学学会主催「女性のヘルスケア研修会 上級編」を年1回現地開催で開始している。

4) 学会が主催してメノポーズ週間事業を行っている。You tubeに“輝くのはこれから!” “更年期を心地よく過ごすために知っておきたいこと”などの更年期啓発動画を公開し、社会啓発活動に努めている。2017年度には、「女性アスリートのヘルスケアに関する管理指針」を示し、女性アスリートの健康増進に取り組んでいる。

5) HPV ワクチンに関する情報を適宜、ホームページや会員メールで伝え普及に努めている。

#### d.学会運営上留意している点

産婦人科医師だけではなく、他科の医師、看護師、助産師、薬剤師、保健師、栄養士などの医療関係者に広く門戸を開いている。

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

1) プライマリケア連合学会との合同シンポジウムを行い、更年期女性の診療についてアンケート調査を行った。日本助産学会での講演など、薬剤師および助産師との連携活動を行っている。

#### 2) 日本循環器学会

・本学会からも改訂作業に参画した日本循環器学会「冠動脈疾患の一次予防に関する診療ガイドライン 2023年改訂版」が2023年3月に発刊され、さらに2024年3月13日に英語版が公開された。

#### 3) 日本動脈硬化学会

・本学会からも改訂作業に参加した日本動脈硬化学会「動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2022年度版」が2022年7月に刊行された。

#### 4) 日本骨粗鬆症学会

・本学会からも「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン 2015年版」の改訂作業に参加している。

#### 5) 日本産科婦人科学会

・2022年3月の日本産科婦人科学会理事会において、これまで日本産科婦人科学会と日本女性医学学会が共同で編集を行ってきたHRTガイドラインとOC・LEPガイドラインの改訂について、今後は「日本女性医学学会編集・日本産科婦人科学会後援」の形で行っていくことが承認された。現在「HRTガイドライン」の改訂作業中である。